令和4年度　英語教育推進事業
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

令和5年7月

池田市教育委員会

1. 概要

・池田市では平成16年3月に構造改革特別区域計画の認定を受け、「教育のまち池田」特区に取り組んできました。 市立小学校全学年に「英語活動」を教科として導入（全学年　年間35時間）し、平成18年度より全小学校で実施してきました。

平成20年7月より「構造改革特別区域研究開発学校」規制の特例措置が全国展開されたことにより、本市の特区認定は取り消され、文部科学省の「教育課程特例校」指定に移行し、これまでの特区内容の教育課程を継続実施しています。

平成25年度に「教育課程特例校」の実施期間の終了を迎えましたが、平成26年度以降も継続を申請し、1～4年生における「英語活動」の授業を実施しました。

新学習指導要領への移行に伴い、「英語活動」は引き続き1・2年生で実施し、幼稚園、小・中・義務教育学校での継続的な英語学習をすすめています。

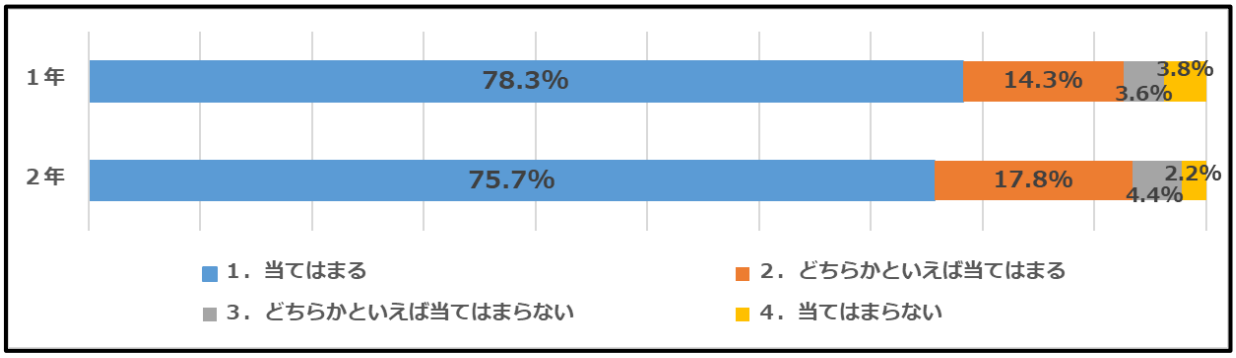
この1・2年生の「英語活動」は生活科の時間を活用して年間15時間実施しています。内容としては主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。早期の段階から英語に触れることで、ことばや文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成することをねらいとしています。中学年からの外国語活動、高学年からの外国語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

・池田市では小学校6年間の英語の学習成果を検証するために、6年生を対象に GTEC を実施しています。GTEC とは、英語の 4 技能（聞く・話す・読む・書く）を測定する外部試験です。4つの技能を全てタブレットで測定します。子どもたちの学習成果を測定するだけではなく、課題をとらえ、外国語の授業改善にも取り組んでいます。

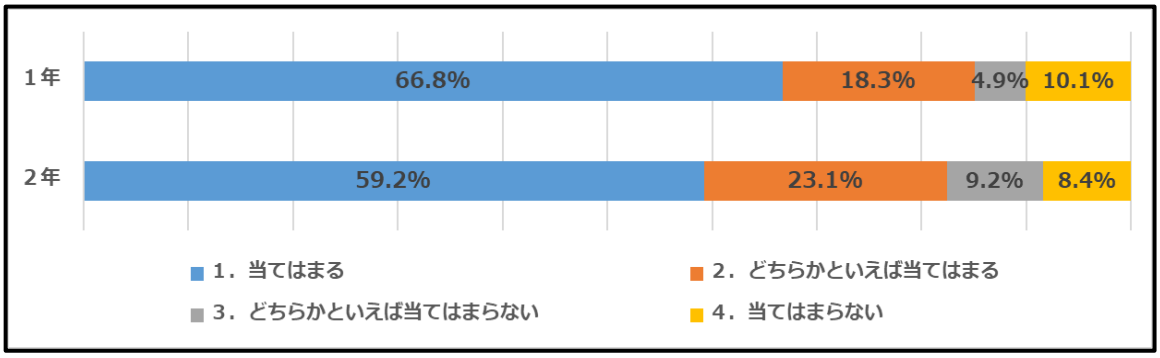
2. 池田市の児童アンケート結果

【小学校1・2年生対象（教育課程特例校における特別の教育課程を実施している学年）】

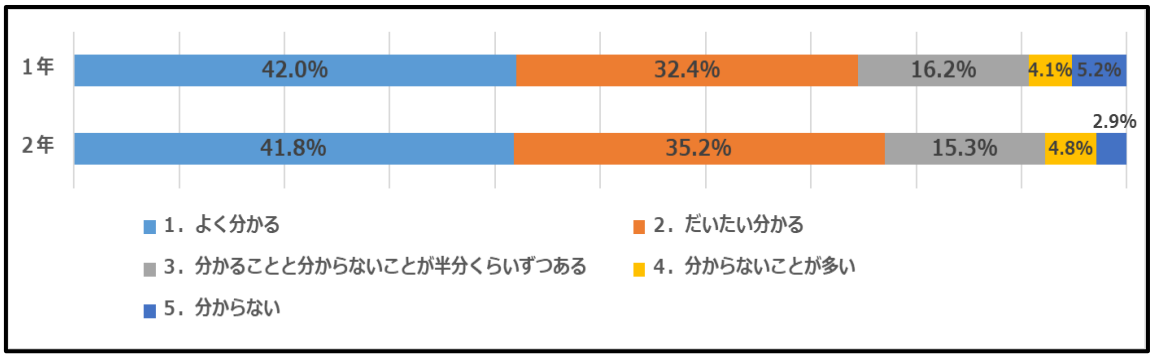
①英語活動の時間は楽しいですか



②英語を使って外国の人と話せるようになりたいですか

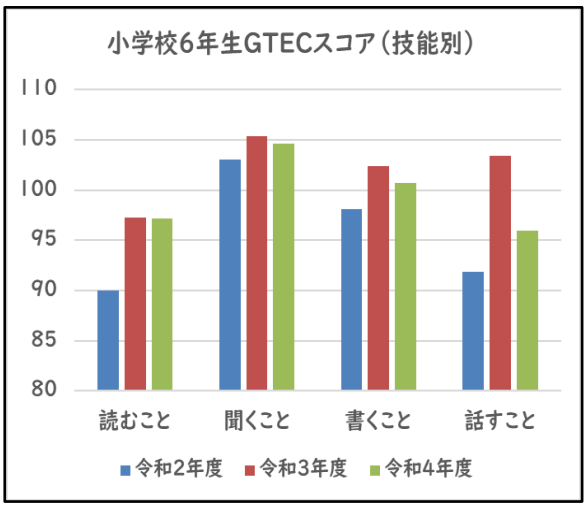


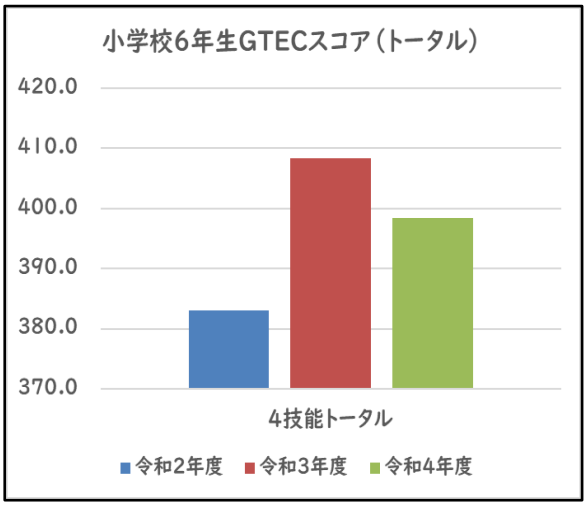
③英語活動の授業はどの程度分かりますか



3. 池田市の GTEC のスコア推移（令和2年度～令和4年度）

※各技能120点満点で、トータルは480点満点です。トータルスコアの令和4年度全国平均は参考値ですが、384点です。





4. アンケート等の結果より

GTECの受検を始めて6年になる。トータルスコアについては令和3年度よりも低下したが、全国平均を上回る結果となっている。4技能別でのスコアの推移をみると、この6年間で特に「話すこと」や「書くこと」の出力技能において成果が見られる。学習した単語や表現等を用いてペアでやり取りをしたり、発表をしたりする場面を小学校6年間の中で多く設定してきたことの成果であると推察する。しかし一方で、アンケートの結果にもあるように、「英語の授業が楽しくない」と感じている児童も一定数いるのも事実である。今後も児童の発達段階に応じた英語の授業の積み重ね、また、子どもたちが楽しいと思える授業づくりに取り組んでいく。

5. 英語担当教員アンケート（小学校1・2年生の英語活動について）

・低学年から英語を使ってのアクティビティや ALT とのコミュニケーションを通じ、外国語取得の難しさを感じる前に表情やジェスチャーを使えば、コミュニケーションが取れることを体感することができている。この経験が外国を話すことへの恐怖感や不安感を軽減するだけでなく、積極的な発話につながっている。

・中学年以上においても、進んでコミュニケーションを取る児童が多く、学習にも前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。

・低学年のうちから、ネイティブの発音に慣れていることで、高学年での発音もよくなっている。

・フォニックス等の活動が学級担任でもスムーズに行えるように、また導入で子どもたちが授業に積極的に参加できるように工夫していきたい。

6. 保護者・学校関係者等の評価

・低学年から英語に触れる機会があることで、中学年の外国語活動、高学年での英語科につながり、子どもたちが系統的に英語に親しみを持って、継続的に学習できるところが素晴らしい。

・簡単な文法が分かっていないまま高校や大学に入学してくる生徒、学生が増えていると聞いている。話すことも大切ではあるが、まずは基礎基本をしっかり定着させてほしい。

・英語の知識も大切ですが、小学校では英語に親しみ、「話したい」「外国の人とつながりたい」と思えることも大事にするべきだと感じます。

・小学校での英語教育は、「楽しんで身近に感じる」「わからなくても楽しい」と思える 「英語と出会う入口」であってほしいと思います。

・英語がこれからの社会でどれだけ必要になるのか、翻訳機能も発達しているので、何とも言えない。

・早いうちから英語を習うのはいいことだと思う。そこからいろいろな言葉があるのを知ることは、いろいろな人がいるという多様性にもつながる。

・外国のことばや文化に触れることを入口に、単に言葉を学ぶだけでなく、国際理解教育につなげていくことができる。外国人児童も増えていると聞いているが、そういう視点を大切に、外国語教育を進めてほしい。

・小学校で英語嫌いになってしまう子が増えていると聞いている。そうなってしまうと、中学進学以降の学習意欲が低くなってしまう。英語を学ぶ楽しさを小学校、特に低学年の英語では大切にしてほしい。

7. 今後に向けて

・英語担当教員のアンケートからもあるように、低学年からの英語活動により、英語の音声や表現に慣れ親しむという点では効果が出ているように感じている。一方で3年生以降の外国語活動においても、2年生までの英語活動を元に、引き続き児童の興味関心を高められるような授業展開をしていかなければならない。

・英語に対して低学年から苦手意識をもってしまうことのないように、特に1年生の英語活動においては、国際理解教育という視点も含めながらどの児童も前向きに楽しんで取り組んでいけるような学習活動を工夫していかなければならない。